

教育目標		心身豊かに学び合う子どもの育成						
重点目標	重点目標	I 学び合いの学校づくり						
		①教育目標の具現化に向けて、学校評価検討委員会及び学校運営協議会を計画的に開催し、課題を共有して組織的改善に取り組む。						
		②伝え合いひびき合う学びを目指して、書くことを通して言葉による見方、考え方を働かせる授業づくりに努める。						
		③学習面や行動面で個別支援の必要な児童の情報共有を推進するとともに基礎的環境整備の充実、合理的配慮の提供や個別最適化の学びを図ることに努める。						
		④一人ひとりの子どもにたくましく生きる力やお互いを思いやる心を培うキャリア教育と道徳教育を推進する。						
		⑤教員の情報機器の活用能力の向上をはかり、よりわかりやすい授業作りに努めるとともに情報モラルについても指導する。						
		⑥「きれいにしよう」とする意欲・能力・態度を育て、掃除時間が自分を磨く時間となるよう指導する。						
		⑦学校生活のきまりについて全職員が共通理解をはかりつつ指導にあたる。						
		⑧楽しく安心して運動に取り組むことができるよう指導する。						
		⑨教職員の業務の精選。						
		II 開かれた学校作り						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	(1)教育課程	・学校評価検討委員会を計画・運営する。その中でそれぞれの分掌の現状と課題を集約し、共有・検討できるような教育課程の立案、施行、評価を行う。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、教科横断的な視点で教育課程を行う。 ・職員会議においては、部会・学年打ち合わせ等を有効に活用し、提案及び協議内容を精査し、スリム化をはかる。 ・教職員用のマニュアルを活用し、全職員が共通理解をはかりつつ業務、指導にあたる。 ・チームワークと時間対効果を意識した業務の推進を行う。	・学校評価検討委員会を適宜開催し、①今年度の重点目標、具体的施策の検討②成果と課題、改善策の検討③来年度重点目標の設定を行い、教育目標の具現化に役立てる。 ・学校評価アンケートの教育課程の項目「お子様はは楽しく学校に行っていますか」(保護者用)、「学校は楽しいですか」(児童用)で肯定的な意見がともに90%を超える。(昨年度95.1%、89.4%) ・教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見が85%を超える。(昨年度78%)	B	(成果) ・学校教育目標・重点目標を意識して教育活動に取り組むことができた。 ・児童アンケート「学校は楽しいですか」で肯定的な意見が87.6%(昨年度89.4%)、保護者アンケート「お子さんは楽しく学校に行っていますか」で肯定的な意見が94.6%(昨年度95.1%)、で昨年度と同等を維持することができた。 ・児童アンケート「学校行事は楽しいですか」で肯定的な意見が95.8%(昨年度89.41%)、保護者アンケート「お子さんは学校行事に楽しく参加していますか」で肯定的な意見が97.9%(昨年度98.7%)で昨年度と同 等であった。 ・教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見 が88%(昨年度78%)であったので、業務改善の成果が見られた。 (課題) ・校内アンケートより、文部科学省からの提言にあったように、授業時数の余剰が多すぎるとの意見があった。文部科学省の指針に合わせて適正化を図っていく。	・さらに達成感や充実感を味わえるような行事作りを目指し、各校務分掌と連携して、児童の成功体験を積み上げていく。 ・文部科学省の指針に沿って教育委員会と連携し、適正な授業時数の確保に努める。	・適正な授業時数の実施により、教職員にも児童にも多少のゆとりが生まれると思う。好循環につながるように期待したい。 ・児童や保護者が「学校行事」等に何を求めているのか意見や希望を聞いた上で、できることは反映させる取り組みが必要だと思う。	
	(2)学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」や「言葉による見方・考え方を働かせる授業」のあり方を研究する。 ・読み書き計算などの基礎的な学力を児童に定着させるための教育活動を計画する。	・「書くこと」を通して豊かな語彙を獲得するための授業づくりを推進する。 ・配慮を要する児童に対する手立てを具体化し、全ての子の授業参加を促す。 学力向上委員会において、系統的な朝学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などの検討を行う。	・教職員用内部アンケー、「本校の教師は『言葉による見方・考え方を働かせる授業』を行っている」の肯定的意見の割合が70%を超える。 ・児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的意見の割合が90%を目指す。(昨年度92.9%)また、「書くことを積極的に取り組んでいますか」の項目を起こし肯定的な意見の割合をめざす。 ・保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」の肯定的意見の割合が昨年度を上回る。(昨年度88.9%)	B	(成果) ・教職員用内部アンケート「本校の教師は『言葉による見方・考え方を働かせる授業』を行っている」の肯定的意見の割合が92.6%(昨年度95.3%)で目標を上回った。 ・児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的意見の割合が95.1%(昨年度93%)で、目標を上回った。 ・保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」の肯定的意見の割合が97.9%(昨年度85%)と昨年度より上がり、目標を上回ることができた。 (課題) ・児童アンケート「書く事が好きですか」において肯定的な意見が64.9%(昨年度69.5%)となり、5%程度減少した。	・学力向上委員会において、系統的な朝学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などを行う。 ・児童が、書くことが楽しいと感じられるような取り組みや実践を教職員で共有し、普段の授業づくりに役立てる。また、その中から豊かな語彙の獲得につながる取り組みを校内で研究していく。	・タブレットでの入力と実際に文字を書くことのバランスを考え、書くことが好きになってもらいたい。 ・タブレットが普及し、画像等による指導が進んでいるが、書くこと・会と覚えることも大切なため、学年ごとの教員の取り組みの情報共有を綿密に進め、授業を行ってほしい。
	(3)生活指導	・問題行動の未然防止、早期解決を図り、児童が楽しく過ごせる環境を作る。 ・不登校の早期発見、対応に努め、児童が安心して通えるよう支援する。 ・いじめの未然防止や早期発見、対応を図り、児童が楽しく過ごせる環境を作る。	・学年、生活指導部会、管理職間の円滑な連絡体制の確立、校内職員の共通理解を徹底し、チームで課題解決にあたる。 ・日々の観察から登校しづり等に気がつき、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・いじめ防止等のための基本方針にそった対応マニュアルの見直しと周知を行い、組織的な対応を継続する。 ・いじめアンケートや聞き取り調査、セルフチェックシートによる観察からいじめの早期発見、対応に努め、家庭訪問や、電話連絡により家庭と密に連携を図る。 ・道徳教育でいじめや差別の問題について考え、日々の行いに立ち返る働きかけを行う。	・教師の校内アンケートにおいて「本校は問題行動が起きたとき、組織的に対応できているか」が90%を超える。(昨年度97.6%) ・保護者アンケートにおいて「お子さんは楽しく学校に行っているか」が90%を超える。(昨年度95.1%) ・保護者アンケートにおいて「学校はいじめや心の問題に取り組んでいますか」が80%を超える。(昨年度71.9%) ・児童アンケートにおいて「あなたのクラスでは、いじめを許さないクラスづくりに取り組んでいますか」が90%を超える。(昨年度92.2%)	B	(成果) ・教師の校内アンケートにおいて「本校は問題行動が起きたとき、組織的に対応できているか」が目標の90%を上回った。(昨年度97.6%⇒96.3%) ・保護者アンケートにおいて「お子さんは楽しく学校に行っているか」が目標の90%を上回った。(昨年度95.1%⇒94.6%) ・児童アンケートにおいて「あなたのクラスは、いじめを許さないクラスづくりに取り組んでいますか」が目標の90%を上回った。(昨年度92.2%⇒93.8%) (課題) ・保護者アンケートにおいて「学校はいじめや心の問題に適切に取り組んでいますか」が、2022年度より数値(昨年度71.9%⇒74.6%)は上回ったが、目標の80%を下回り、保護者への啓発が必要であることが分かった。	・保護者アンケートは、19.6%(昨年度23.4%)が「わからない」と回答しており、学校の取り組みが家庭にわかりやすく伝わっていないことが推測できる。引き続き、いじめに対する学校の取り組みをホームページや家庭との連絡の際に丁寧に説明していきたい。 ・昨年度より保護者も児童も微増傾向であるため、今年度の取り組みを継続していく。 ・いじめアンケート、生活指導部会、ケース会議等での学校全体での情報共有を徹底し、不登校傾向の事前把握と早期対応に努める。	・いじめは絶対にあってはならず、早期発見・対応が重要であるため、引き続き日々の児童の様子をしっかり見ていただきたい。 ・生活指導に関して、家庭により受け取り方に幅があるように思う。その中での丁寧な対応を心がけられていると思う。
	(4)安全管理	・地震・火災・不審者遭遇時、児童が自分で判断し、命を守るための行動をとることができるようにする。 ・正しい校内の歩き方や通学のしかた、遊具の安全な使い方、自転車の乗り方ができるようにする。 ・上の3点について、安全指導について家庭と連携を図りながら取り組む。	・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらも、自分で災害や不審者から命を守るための指導や訓練を適切に行っていく。 ・通学路や校内の正しい歩き方について、教職員が引き続き意識を統一させ指導にあたる。 ・終業式や学校朝礼による全体指導や資料を活用した学級指導などを通して啓発する。 ・児童が安全に遊具を使用できるよう全体指導を行う。 ・児童が、安全について学習したことを保護者にきちんと伝えられるような指導を行う。また、指導内容が家庭に伝わる工夫(手紙、懇談、ホームページ等)をして啓発する。	・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「もし火事や地震にあたり、ふしん者に出会ったら、先生がいなくても身を守る行動がとれますか」で、肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度94.4%) かつ、訓練に真剣に取り組むことができる。 ・学校評価児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度78.7%) ・学校評価の保護者アンケートの「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度78.8%) ・学校評価保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度85%)	B	(成果) ・保護者アンケート「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」で、肯定的な意見が80.2%(昨年度76.6%)と目標を達成することができた。 ・児童アンケート「もし火事や地震にあったり、ふしん者に出会ったら、先生がいなくても身を守る行動がとれますか」で、肯定的な意見の割合が93.7%(昨年度92.5%)で目標を上回った。 (課題) ・児童アンケート「学校の廊下や道路では、右側を広がらずに歩くことができる」で、肯定的な意見79.8%(昨年度78.7%)と目標を上回ることではできなかった。 ・保護者アンケート「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見が84.5%(昨年度85%)と目標を達成することができなかった。	・廊下や道路の歩き方などは、朝礼や集会などで児童が集まる場で呼びかけたり、一斉下校の訓練時に歩き方を指導していくようにする。 ・火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を引き続き行う必要がある。また、教職員一人ひとりが意識して子どもたちを見守り、指導していくようにする。	・非常時の対応については、定期的な訓練が不可欠だと思います。 ・安全管理は、日々の生活の中で身につけておくべきことで、学校・家庭・地域が一丸となって行動していかなければならないこと。
	(5)保健管理	・「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的生活習慣の定着をはかる。 ・口腔内の健康の保持増進をはかる。 ・平素より感染症対策として環境衛生に配慮し、児童一人ひとりが清潔行動を意識できるよう指導を実施していく。	・児童の生活習慣アンケートや健康診断の結果をもとに、ほげんだより、ホームページ、個人懇談会などを利用して児童・保護者への啓発を行い、家庭での児童への指導を推進する。・保健室での個別指導の強化 ・掲示物を利用した啓発活動を行う ・平素より感染症対策としての環境衛生の充実をはかる。 ・児童一人ひとりが清潔行動を意識できるよう指導を継続して行う。	・アンケートで、「早寝・早起きを守っている」が70%(昨年度64.6%)を上回り、「朝ごはんを食べている」が90%(昨年度94.5%)を維持する。 ・歯科受診勧告書の提出率を経年比較し、受診率が1～4年60%(昨年度66.5%)、5・6年40%(昨年度40.0%)を上回る。	B	・「早寝・早起き」については児童アンケートで63.9%(昨年度64.6%)ができていると回答。しかし、保護者アンケートでは「早寝・早起き」について86.8%ができていると回答しており、児童と保護者の意識に乖離があることが分かった。 ・児童のアンケートで「朝ごはんを食べている」については93.6%(昨年度94.5%)ができていると回答。「朝ごはんを食べる」ということについては、定着している。 一方、 ・歯科受診率(う歯治療率)は1～4年45%(昨年度66.5%)と大きく目標を下回り、5・6年38.3%(昨年度40.0%)と目標とほぼ同等であった。	・「早寝早起き」にスポーツを当てた指導や啓発を行い、基本的生活習慣の定着につなげていく。 ・今年度、低学年での受診率が目標を大きく下回った。生活習慣や病院受診などは家庭での取り組みが要となってくる。受診率が低下した原因を模索し、ほげんだよりの活用など、より一層の啓発に取り組んでいきたい。	・受診率が低いことは、コロナが影響してきたかもしれないが、さらなる啓発活動を通してアップを図ってほしい。 ・健やかな心と体づくりは、生涯の健康の基盤だと思う。継続してほしい。

豊かな心・健やかな体	(6)保健体育教育	・児童の体力・運動技能の向上を目指し、運動への意欲・関心を高める。 ・体育施設、備品の充実をはかり、活動しやすい環境を整える。	・授業作りについての研修を行い、授業改善を計る。(体力向上、楽しい運動遊び、ニュースポーツなど) ・授業作りに関する本を配付し授業研究に生かす。	・学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的な意見の割合が75%を超える(昨年度68.9%) ・学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で肯定的な意見の割合が75%を超える。(昨年度①96.2%②83.9%)	B	(成果) ・学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか」の項目で肯定的な意見が目標の75%を超えた。(昨年度68.9%⇒75.7%) ・②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で、昨年度を下回ったが同程度を維持することができた。(昨年度83.9⇒83.5%) (課題) ・学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか」昨年度を下回った。(昨年度①96.2⇒94.9%)	・外で遊んでいるかという質問に対して、児童と保護者とも昨年度より増加傾向にあった。そのため、委員会などで外遊びを促すような取り組みを継続して行っていく。 ・体育館の倉庫を定期的に整理したり掃除をより丁寧にしたりすることで、さらに利用しやすい体育館を目指したい。	・体力向上も大切だが、運動を楽しむ観点からの指導が必要と考える。 ・引き続き体力向上に努めていきたい。
	(7)人権・同和教育	人権・同和に関する問題や児童が抱える問題の対応について職員で情報を共有する。	・学級づくり研修会や夏季研修等の職員研修を実施し、人権・同和問題への理解を深め、一人一人の児童に寄り添った学級経営に取り組む。 ・児童の発達や実態に合わせた人権課題を取り上げ、人権同和教育授業参観等を活用して、授業を行う。 ・仲間づくり集会を行い、発表や事後指導を通して、より良い学級づくりに取り組む。	・児童アンケート「あなたがこまったときに先生は相談のしてくれませんか」で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度94.8%) ・児童アンケート「クラスで苦しいことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な意見が90%を超える。(昨年度90.6%) ・教師アンケート「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている。」で肯定的な意見の割合を維持する。(昨年度100%)	A	(成果) ・夏季研修やミニ講座等で職員研修を実施し、人権・同和問題への理解を深めることができた。 ・人権同和授業参観、学級懇談会を実施することができた。 ・仲間作り集会を行い、学級作りに取り組むことができた。 ・児童アンケートで肯定的な評価が90%を超えている。「あなたがこまったときに先生は相談のしてくれませんか。」(93.7%) 「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて学んでいますか。」(昨年95.2%⇒96.4%) 「クラスで苦しいことを頑張っている友だちを応援できていますか。」(92.5%) 「あなたのクラスでは、いじめを許さない学校、学級づくりに取り組んでいる。」(昨年92.2%⇒93.8%) ・教師アンケート「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている」(100%)「本校はいじめを許さない学校、学級づくりに取り組んでいる。」(昨年97.7%⇒100%)・保護者アンケート「お子様は、思いやりの心を持ち、命を大切にしていますか。」(昨年98.5%⇒98.6%)	・仲間作り集会の持ち方を、ねらいや学年に合わせて変更する。 ・夏季研修のテーマを「情報モラル」から、人権参観授業のテーマに沿った内容に変更する。	・いじめに関するアンケートの結果が良好なので、これからも継続指導をお願いしたい。 ・子どもが自分のことも他者のことも大切にしている気持ちが育っていることがアンケート結果より伝わる。
	(8)特別支援教育	インクルーシブな社会の構築に向け、各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深め、思いやりの心を育て、助け合って共に生きようとする人間性豊かな子どもを育てる。	・教育のユニバーサルデザイン化を推進し、基礎的環境整備を図る。チェックシートを作成し、学校全体で共通理解して取り組む。学校全体で「意識できていない」項目に着目し、改善策を検討する。また、ホームページで本校のユニバーサルデザイン化について発信する。 ・支援教育研修会で各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深める。 ・部会(校内委員会)で支援の必要な児童について整理・報告し、各学年におろすことで全職員で共有していく。 ・各学級の配慮が必要な児童に対し、どのような合理的配慮を行うとよいか、様々なケースから具体策を検討する研修を行い、日々の実践にいかす。 ・各学級の配慮が必要な児童について、校内の支援の流れを整備する。	・教育のユニバーサルデザイン化チェックシートを用いて18項目をチェックし、「意識できている」の後期の数値が、前期の数値を上回る。 ・学校評価アンケート(教職員用)において、「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」(昨年度93.1%)「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」(昨年度97.7%) 「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UD化)に取り組んでいる。」(昨年度95.3%) の3項目で、肯定的な回答の割合を維持する。 ・学校評価アンケート(保護者用)において、「学校は、教育のユニバーサルデザイン化に取り組んでいますか。」の項目で、肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度71.1%) ・学校評価アンケート(児童用)、「クラスで苦しいことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が90%を	A	(成果) ・教育のユニバーサルデザイン化チェックシートで、すべての項目において後期が前期の数値を上回った。 ・学校評価アンケート(教職員用)において、「本校は学習面・生活面等で配慮の要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」の項目が100%(昨年度97.7%)、「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」の項目が、100%(昨年度93.1%)、「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UD化)に取り組んでいる。」の項目が100%(昨年度95.3%)で3項目とも100%を達成することができた。とくに、教育のUD化については、ここ数年の実践からも意識して取り組まれている。また、部会(校内委員会)で支援の必要な児童の実態把握をし、それを全職員で共有できるようにした。早期に支援の方向性を検討することで、有効な手立てを講じることができた。 ・学校評価アンケート(児童用)において、「クラスで苦しいことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が92.5%(昨年度90%)で、肯定的な回答の割合を維持した。 (課題) ・学校評価アンケート(保護者用)において「学校は、教育のユニバーサル化に取り組んでいますか」の項目で、肯定的な割合が82.3%(昨年度71.1%)を超えたが、分らないが15.7%となった。昨年度からこの項目を追加し、UD化の取り組みをHPで発信しているが、まだ浸透していない部分もある。	・今後も教育のユニバーサルデザイン化について継続してHPや学校便り等で発信するとともに、教師の具体的な支援や取り組みを増やし、参観等で保護者に意識して見てもらう機会をつくる。	・「教育のユニバーサルデザイン」についての研修内容を参考に一層推進を図り、教職員だけでなく保護者にも取り組んだ内容を開示して共有できるさらなる工夫をお願いしたい。 ・アンケート100%となっているが、今後も維持した評価が続くよう期待しています。
開かれ信頼される学校	(9)特別活動	・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するための話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。 ・集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 ・児童の自発的、自治的な活動を通して、学級経営を充実させる。	・新型コロナウイルス感染症防止策を講じたうえで、学級活動を中心として話し合いの活動を行い、児童が積極的に学校をより良くするために行動や発言していくようにする。そのために、笹原小学校としての話し合いの型を作り、どのような学年の児童が集まっても話し合いができ、合意形成できるようにする。(委員会、高学年用の型は活用されているので、低学年用の話し合いの型を作成する) ・児童会活動を通して、学校および児童が活性化する取り組みを考え、発信していくとともに、クラブ活動などの異学年交流を通して人間関係を育成する。	A	(成果) ・教職員用内部アンケートの「各教科・道徳・笹のね・外国語活動・特別活動の時間数は確保でき、計画的に進められたか」で肯定的な割合が向上した。(昨年度92%⇒100%)ただし、特別活動の時間についてのみ答えられたものではないことには留意が必要である。 ・教職員用内部アンケートの「委員会活動を計画的に行えたか」で、肯定的な割合が向上した。(昨年度92%⇒96%) ・教職員用内部アンケートの「クラブ活動を計画的に行えたか」で、肯定的な割合が向上した。(昨年度92%⇒96%) ・話し合いについての教具を各学級分作成することができた。今年度3学期から各学級に配布している。 (課題) ・子どもたちの、「学級や学校の課題を見つけて主体的に解決していこう」「よりよい学校生活を作っていこう」というような姿勢が十分でない。 ・クラブ活動・委員会活動ともに、実施回数が十分でないのではないかとという意見が見られた。	・学級活動における話し合い活動を充実させ、子どもたちの主体的な活動に対する姿勢を育てる。 ・委員会活動については、活動内容が主体的になるよう、担当者を中心に研究を重ねる。また、年間休みや昼休みを有効に活用していく。 ・委員会活動の常時活動を通して、学校の課題やさらに良くなっていきたいところを見つかる態度を養う。 ・クラブ活動については、来年度に活動回数を3回⇒5回と増やしたばかりなので、来年度については現状維持でいい、今後もアンケート等で回数の増減の必要性を把握していく。	・笹ポーターが協力してできるクラブについては、運営協議会で積極的にあげてほしい。 ・クラブ活動、学級活動で話し合いの時間を取り、活性化を図ることが大切だと思います。	
	(10)情報管理・情報教育	・ICT機器を活用し、わかりやすい授業作りを努める。 ・USBメモリ等の情報機器に関する管理方法について全職員で周知徹底をはかる。 ・情報教育(プログラミング教育・情報モラル・セキュリティ)の周知・推進を行う。	・パソコンルームや情報機器・School Taktについての基本的な使い方についての研修会・回覧等を実施するとともに、タブレット端末の使い方の研修を行う。 ・情報機器を整理し、どこに何があるかわかりやすいようにする。 ・プログラミング教育の基本的な取り組みについて研修を行い、周知を図る。 ・USBメモリの管理表を作成し、適切に使用する。 ・個人情報取り扱いについて年度初め等定期的に注意喚起を行う。 ・保護者アンケートに以下の項目を付け加える。「タブレットの活用により、お子様の学習意欲は向上していると思いますか」	B	成果 ・学校評価教師アンケートの「本校は児童・保護者の個人情報保護に努めている。」で昨年度より肯定的な回答の割合を維持することができた(昨年度97.7%⇒今年度100%) ・学校評価保護者アンケートの「学校は子ども・保護者に関する個人情報適切に保護していますか。」で肯定的な回答の割合が80%を超えることができた。(昨年度84%⇒今年度87.1%) ・学校評価児童アンケート「先生は、ICT機器(テレビやパソコン・タブレット等)を使って、教え方にいろいろと工夫していますか。」で肯定的な回答の割合が95%を超えることができた。(昨年度95%⇒今年度93.3%) ・今年度から新たに 学校評価児童アンケートに「あなたは家(学校の外)で、AIDRIL(ドリルパーク)を一週間にどれくらい使っていますか。」の質問項目を追加。今年度61.2%	①タブレットの活用に関しては、AIDRILの宿題実施も含めて引き続き行っていく ②生活指導におけるネットトラブルに関しては、年間カリキュラムにある情報モラル、職員に向けての情報モラルの周知、加えて日々の学級指導などを含めて対応する ③ID・PW類の取り扱い、オンライン授業での注意点、児童のタブレット使用における写真の扱いや個人情報の扱いのルール再度徹底/タブレットの中身のデータの整理整頓 ・今年度から新たに 学校評価児童アンケートに「あなたは家(学校の外)で、AIDRIL(ドリルパーク)を一週間にどれくらい使っていますか。」の質問項目を追加。今年度61.2% 目標値は70%と設定する。	・タブレットを有効活用した授業方法など、学年ごとにとしっかりと情報共有し、学級間で差が出ないように進めてほしい。 ・DXIについては市の方針もあるが、子ども達の成長の中でますます加速することが予想される。新たな取り組みにもどんどんチャレンジしていただきたい。	
	(11)保護者・地域との連携	・学校通信に加え、ホームページやメール配信を活用し、学校から積極的な情報発信を行う。 学校行事、地域行事などを通して、地域、コミュニティスクールとの関係を深めていく。 ・「QRコード・ツイタもん・GoogleClassRoom」などの活用により、学校・保護者間のやりとりのデジタル化を推進する。	・多くの教職員がホームページを更新できるよう周知し、チェックシートを活用してどの学年も情報発信していく。 ・地域行事等に可能な限り教職員が参加できるよう呼びかける。 ・学年便りや学校からのおしらせにQRコードを記載したり、ツイタもんで連絡を行い、学校ホームページの活用推進を図る。	B	成果 ・学校評価教師アンケートの、学校は「学年だより・笹小だより」やHPなどで教育活動の様子を保護者に伝えていますか。の項目において肯定的な意見の割合が95.2と前年度に比べてわずかに向上した。 ・ツイタもんメールから保護者メールへの移行が終わり、下校メールの一文化が完了した。 ・各学年での月一回程度のHP更新も順調に行うことができています。	・学校HPでの教育活動の紹介の内容についてさらなる充実を図っていく。 ・GoogleClassroomを活用した手紙の発信に加え、安全対策などの情報をHPで公開していくこと等保護者からの意見を活用していく。	・ホームページのさらなる充実を図り、学校の様子がよく伝わるようにお願いします。 ・地域と小学校とこども園が校区内で密につながれるように努めたい。	

